

# 英語

## 語彙 (問題冊子p.4 ~ p.6)

1

解答

- (1) ④ (2) ② (3) ① (4) ② (5) ②  
(6) ③ (7) ④ (8) ③ (9) ④ (10) ①

解説

(1) 「医者には私にケーキや甘いものを食べるのをやめるようにと言った。」

下線部のgive upは後ろに動名詞を伴って「～するのをやめる」という意味を示す。④のstopがそれと同じ意味を表す。

(2) 「時がたつにつれて、議論は白熱していった。」

go byは「(時が)経過する、(人や車が)通り過ぎる」という意味なので、②passedが正解。

(3) 「私たちは招待状を送って、誰が来るのか確かめるつもりだ。」

下線部のturn upは「現れる」の意味で、①のappearがそれと同じ意味を表す。②happenは「起こる」、③stopは「止まる」、④waitは「待つ」の意味で、いずれも「現れる」の意味にはならない。

(4) 「私たちは彼が貧しいからといって、彼を見下すべきではない。」

look down on～は「(人)を見下す、軽べつする」という意味で、②despiseが正解。

(5) 「どうして彼が学校をやめることになったのですか。」

下線部のcome aboutは「起こる」の意味で、②happenが同じ意味を表す。

(6) 「その赤ん坊は実に母親に似ている。」

下線部のtakes after～は「～に似ている」の意味で、同じ意味を示すのは③のresemblesである。なお、look after～は「～の面倒を見る」の意である。take after～と混同しないこと。

(7) 「あなたは私が秘密を守ることを当てにしてよい。」

下線部のrely on～は「～を当てにする」の意味で、④のtrustがそれと同じ意味を表す。

(8) 「交通信号では、赤は『止まれ』を表す。」

下線部のstands for～は「～を表す」の意味で、③のrepresentsがそれと同じ意味を表す。

(9) 「その規則は廃止されるべきだと思いますか。」

下線部のdo away with～は「～を廃止する」の意味で、④abolish(～を廃止する)が同じ意味。①carry outは「～を実行する」、②followは「～に従う」、③decideは「～を決定する」という意味で、ここでは不相当。

(10) 「彼の子どもたちは育ちがよいから行儀作法が身についている。」

下線部のbrought upは、bring up「～を育てる」の過去分詞形。raise(～を育てる)の過去分詞形の①raisedが同じ意味を表す。

2

解答

- (1) ② (2) ③ (3) ② (4) ③ (5) ②  
(6) ④ (7) ④ (8) ④ (9) ① (10) ①

解説

(1) 「彼女は新しい冷蔵庫を買うつもりだと私に言った。」

that節を用いて、「～と(人)に言った」を英

語で書く場合、伝達文が平叙文であるときは、**<said to+人+that ~>** か **<told+人+that ~>** のいずれかをを用いる。①にはtoが必要である。ここでは後ろにmeがあるので②のtoldが正解。

(2)「彼女は自分の部屋の明かりをつけた。」

turn on ~で「(ラジオ・テレビ・明かりなど)をつける」の意味を表すので③が正解。②turn overは「(ページ)をめくる、ひっくり返す」の意。

(3)「私が今帰宅することをお許してください。」

動詞allowは**<allow+人+to不定詞>**の構文で「(人)が~するのを許す」という意味になるので、②me toが正解。この場合allowは他動詞なので直後には目的語meが必要であり、④for me toとはならないことに注意。

(4)「ケーキの焼き方を私に説明してくれませんか。」

explainは「(人)に説明する」の意味の場合、前置詞toが必要であり、**<explain to+人+wh-節 [that節, wh-句, how to ~]>**の形になる。

(5)「その時、彼は私の肩に手を置いた。」

①layは「~を置く」という意味で、その過去形および過去分詞形は②laid。lieは「横になる、~がある」という意味の自動詞だが、この動詞の過去形の①layや過去分詞形の④lainと混同しないように注意しよう。

(6)「私の友人たちは私に、私たちがその計画を断念するよう提案するだろう。」

suggest (提案する)は目的語を1つしかとれないので、「人に」の部分をもto+人)の形で表さなければならない。

(7)「この規則は18歳未満の人だけに適用される。」

applyは、**apply to ~**で「~に適用される」という意味を表す。したがって正解は④。なお、①のapply for ~には「~を申し込む」の意味がある。

(8)「彼女は彼が遅刻したとって非難した。」

④**<accuse+人+of ~>**は「~のことで(人)を非難する [責める]」という意味。

(9)「私はあなたに多額の借金がある。」

oweは、**owe A B**で「AにBを借りている」の意味を表す。

(10)「このカメラは300ドルした。」

動詞costは**<cost+人+金額>**の形で、「(人)に(金額)を費やさせる」という意味で使われる他動詞である。

### 3

#### 解答

- (1) ④ (2) ③ (3) ③ (4) ④ (5) ①  
(6) ③ (7) ① (8) ① (9) ① (10) ④

#### 解説

(1)「一日中ひどい雨が降った。」

「ひどい [激しい] 雨」にはheavyという形容詞を使い、**heavy rain**と表現する。④が正解。

(2)「この本は読みやすい。」

正解は③のeasy。①②④はいずれも意味をなさない。なお、このように主語が意味のうえでto不定詞の目的語となる例として、次のようなものもある。例) The river is dangerous to swim in. 「この川は泳ぐと危険です。」

(3)「夜一人で子どもが外出するのは危険です。」

人の性格に関する形容詞のあとでは、④のように<of+人>を用いるが、ここでは「夜に一人で出歩く行為」が「危険」といっているのであって、このdangerousは「人の性格」を示しているのではない。したがって③が正解。

(4)「番号を間違えていると思います。こちらは06-123-4567です。」

have the wrong numberは「(電話で)番号を間違えている」という意味。wrongは「間違った」の意味。

(5)「8時までにそこに着くことはできないだろう。」

①**S be unable to ~**は「Sが~できない」という意味を表す。③incapableにはofが続くことに注意しよう。

(6)「これらの大きな車は、すべて私のおじのものだ。」

名詞に2つ以上の形容詞がつく場合、原則的に冠詞または形容詞用法の代名詞〔代名形容詞〕のあとは「数量」, 「性質を表すもの」の順番で表現するが、allはすべてのものの前につく。よって正解は③All these big。

(7)「その式典には多くの人が出席していた。」

本問ではa lot ofとpresentの用法を押さえよう。a lot of=lots ofだが、いずれも群形容詞といって3語あるいは2語からなる形容詞であり、③のようにa lot ofの中に別の形容詞をはさむことはない。次にpresentだが「参加して、出席して」の意味では名詞を後置修飾する。②や④のようにpresent peopleの語順にはならない。

(8) 「このレコードは大変珍しいので、少なくとも100ポンドの価値はあるにちがいない。」

〈～ is worth + 名詞...〉は「～は…の価値がある」という意味。worthは名詞、動名詞を目的語にとる。

(9) 「彼らは非常に似ているのでどちらがどちらか区別するのが難しい。」

①～④の中で「似ている」という意味を表すのは①alikeと③resembleだが、〈so ~ that...〉のsoのあとには形容詞か副詞しかこないのが正解は①alike。

(10) 「スミス氏はわずかな給料で一生懸命働いている。」

salary (給料) やincome (収入) とともに用いられ、その多い・少ないを表す形容詞は、large [high] やsmall [low] である。

## 文法 (問題冊子p.7 ~ p.11)

### 1

#### 解答

- (1) ③ (2) ④ (3) ③ (4) ④ (5) ②  
(6) ④ (7) ② (8) ②

#### 解説

(1) 「毎月誕生日があればいいのになあ。」

正解は③could have。誕生日は年に1度しかないので、毎月誕生日があるということは現実にはあり得ないことである。このように現在の実現不可能な願望を表すとき、〈S + wish + S' + 仮定法過去〉を使う。

(2) 「もしあなたが来ることを彼が知っていたなら、彼は外出しなかっただろうに。」

現実には「彼はあなたが来ることを知らなかったので、外出してしまった。」である。過去の事実とは反対のことを仮定する仮定法過去完了を使う。

(3) 「私は今週とても忙しい。そうでなければ、金曜日のきみのパーティーに行くのだが。」

otherwise (そうでなければ) はif I were not busy (忙しくなかったら) という意味で、現在(あるいは未来)の事実と反する仮定を表す。

(4) 「もし田舎に住んでいれば、私はずっと健康だろうに。」

主節にwould be 「～だろうに」がきているこ

とから、if節は「もし私が(都会ではなく)田舎に住んでいれば」という仮定の意味であることがわかる。したがって正解は④。

(5) 「頭のいい人だったら、そんなばかげたことは言わなかっただろう。」

主語のA clever manに条件の意味が含まれた仮定法過去完了の形になっている。〈助動詞 + have + 過去分詞〉と考え、②が正解となる。

(6) 「100年前なら、彼は偉大な科学者だと考えられていただろうに。」

本問ではA hundred years agoが「もし100年前だったら」という仮定を表している。実際には100年前にさかのぼることは不可能なのだから、仮定法を用いる。また100年前という過去だから、**仮定法過去完了**の④が正しい。

(7) 「もしその列車に乗り遅れていたなら、今ごろそこで待っているだろう。」

If節の「もしその列車に乗り遅れていたなら」は、過去の事実と反する仮定であるから、If I had missed the trainのように動詞は仮定法過去完了になっている。一方、主節の「今ごろそこで待っているだろう」は、現在の事実と反する事柄であるから、仮定法過去のwould be waitingが正しい。

(8) 「宿題を始める時間ですよ。」

It is (high) time (that) ~ のあとでは**仮定法過去**を用いる。したがって正解は②。これは「もう～するはずの時間なのに～していないのはどういうことか」という、仮定法から発展してきた表現である。

### 2

#### 解答

- (1) ③ (2) ③ (3) ③ (4) ② (5) ④  
(6) ④ (7) ③ (8) ③ (9) ①

#### 解説

(1) 「あなたはテレビゲームをするのをやめましたか。」

give up 「～をやめる、あきらめる」は動名詞を目的語にとり、to不定詞は目的語にとらない。したがって、正解は③。

(2) 「自由な時間がたくさんあるので、私は中国語を勉強したい。」

〈接続詞 + S' + V'〉の働きをする分詞構文。主節と同じ時制で「持っている」と能動の意味なので、③が正解。

(3) 「エンジンをかけっぱなしにはいけない。」

〈leave+O+C〉は「OをCのままにしておく」の意味である。Cには過去分詞がくることもあるが、本問ではthe engineとrunは「エンジンがかかっている」(The engine is running)の関係なので、現在分詞を用いた③が正解。

(4)「私たちは上司にこれらの事実を知らせた。」

〈get+O+C〉は「OをCにする」という意味で用いる。OとCの関係が「Oが～される」という意味の場合、Cは過去分詞になる。したがって正解は②。

(5)「私はその歌が英語で歌われるのを聞いたことがある。」

正解は④sung。〈hear+O+過去分詞〉で、「Oが～されるのを聞く」という意味。ここで重要なことは、「Oが～される」という受け身の関係にあるときは、現在分詞でなく過去分詞(この場合sung)を使うということである。

(6)「初めてヨーロッパに行ったとき、アルプスを見たことを私は決して忘れないだろう。」

正解は④seeing。「(過去に)～したことを忘れる」は〈forget+動名詞〉で表す。

(7)「仕事を終わらせてしまったので、私はやっと家に帰れた。」

接続詞を用いて表すと、Because [As, Since] I had done my work, ... となる。接続詞および主語を省略し、〈having+過去分詞〉で過去(完了)の意味を表す完了形の分詞構文を用いた③が正解。

(8)「時間を十分に与えられれば、私は自分の部屋をきれいにできるでしょう。」

〈条件〉を表す分詞構文。文の後半から考えると、ここでは「十分な時間が与えられれば」という受け身の意味にするのが自然。受動態の分詞構文は〈being+過去分詞〉となるがbeingは文頭にくると省略されるのが普通。したがって、正解は③。

(9)「彼女は親切にも私が宿題を終わらせるのを手伝ってくれた。」

〈help+O+原形[to]不定詞〉で「Oが～するのを手伝う」で、Oに目的格を用いた①が正解。意味上、〈O+原形[to]不定詞〉が〈S+V〉の関係になっている。

### 3

#### 解答

- (1) ② (2) ④ (3) ② (4) ④ (5) ①  
(6) ② (7) ① (8) ② (9) ④

#### 解説

(1)「次の月曜日までにその本を図書館に返すのを忘れるな。」

ここでは「～までには返す」という行為の完了期限を示している。「～までに(は)」という期限を表す前置詞はby。

(2)「私はフランスにいる間、大学でフランス語を勉強した。」

「～をしている間」は〈while+S'+V'～〉で表す。

(3)「きみはこんなに寒い夜に外出すべきではない。」

「夜に、晩に」はat nightと表現するが、特定の日の朝・午後・夜を表す場合は、前置詞はonを用いることに注意しよう。

(4)「あなたは彼の計画に賛成ですか、それとも反対ですか。」

orがあるので、後ろの「～に反対して」againstとの対比の語が入ると考える。ここでは、〈擁護・支持〉を表す「～の側に」の意味のforが入る。したがって、正解は④。

(5)「驚いたことに、その小さな少女は彼女のおじの家までの道を歩くことができた。」

to my surpriseで「驚いたことに」の意味。したがって、正解は①。

(6)「私はもうこれ以上あなたを待てません。急いでいるんです。」

in a hurryはin haste(文語的)と同意表現で、「急いで」の意味。この前置詞inは「～の状態で」の意味を表す。hurry☑「急ぐこと、大慌て」は①at ③for ④onのようなin以外の前置詞とはつながらない。

(7)「この服装は若者たちに人気がある。」

amongは「(3人[3つ]以上の人[もの])の間に」の意味を表す前置詞。②into ③of ④toの前置詞はいずれもpopularのあとにつながらないため不適。

(8)「丁寧に扱うのなら、このかばんを使ってもいいですよ。」

〈条件〉を表す「～する限りは、～しさえすれば」



はas long as ~で表す。したがって正解は②。

(9) 「彼女はこの歌が好きだろうかと思う。」

I wonder whether [if] で「～だろうかと思う」の意味。したがって、正解は④。

## 4

## 解答

- (1) ① (2) ① (3) ③ (4) ① (5) ②  
(6) ④ (7) ③ (8) ④ (9) ②

## 解説

(1) 「この人が私の母を助けたと私が思った男性だ。」

先行詞the man「男性」を受けるので、関係代名詞whoを選ぶ。直後のI thoughtは挿入節で、関係代名詞whoはsaved my motherの主語としての役割（主格）である。したがって正解は①。

(2) 「彼がここを去った理由は誰も知らない。」

関係副詞whyはreason(s)を先行詞として「～する理由」という表現に使われる。なお、「理由」を表す場合the reason(s)または whyのどちらか一方を省略する場合もある。

(3) 「アキヒコは空き時間があるといつでも本を読んでいる。」

〈whenever+S'+V' ~〉の形で「～する時はいつでも」という意味を表す。①whichever「～するどちらでも、どちらが～しようと」、②howeverは直後に形容詞・副詞を置いて「どんなに～しようと」、④whatever「～するものは何でも、何が〔を〕～しようと」は、いずれも文意に合わず不適。

(4) 「彼は待合室にやってきた最初の人でした。」

He was the first man. とHe(=The first man) came to the waiting room.の2文を結びつけた文。先行詞は、the first manで、後半の主語の働きをしているので、主格の関係代名詞whoまたはthatが入る。先行詞にthe first やthe onlyなど限定を表す語句がつく場合thatを用いることが多い。したがって、正解は①。

(5) 「私はきみが必要なものは何でもあげるよ。」

複合関係代名詞whateverはここでは「～するものは何でも」という意味で、関係代名詞whatの強調形である。①however「どんなに～でも」③whenever「～する時はいつでも」④wherever「～するところならどこでも」はここでは不適。

(6) 「あなたはどちらでも好きなほうをもらえま

すよ。」

whicheverは「～するものはどれ〔どちら〕でも」という意味。先行詞をとらず名詞節を導く。①thatと②whichは先行詞が必要なので、ここでは使えない。③whetherは「～かどうか」という意味で、意味が通じない。

(7) 「母は私に、脚の折れたいすを持ってくるように言った。」

My mother told me to bring the chair.とIts leg was broken.の2文を結びつけた文。このItsに相当する関係代名詞は、所有格の働きをするwhoseが適切。whoseは先行詞が「人」でも「物」でも用いられ、直後に必ず名詞を伴う。したがって、正解は③。

(8) 「パリはぜひ訪れるべき場所だ。」

関係代名詞thatはここでは目的格、すなわちあとに続く節の中でvisitの目的語となるべきplaceという名詞を受けている。関係副詞whereも場所を表す名詞に続いて用いられるが、副詞句を受ける場合である。したがって、正解は④。

(9) 「これは今年の夏に私が滞在したホテルだ。」

This is the hotel.とI stayed at the hotel(at which) last summer.の2文を結びつけた文と考える。〈前置詞+関係代名詞〉は副詞句の働きをしているので、先行詞が「場所」の関係副詞whereに言い換えることができる。①は場所を表す前置詞atが必要、③thatは〈前置詞+関係代名詞〉の形で用いることはできないので、いずれも不適。

## 5

## 解答

- (1) ③ (2) ② (3) ③ (4) ④ (5) ②  
(6) ① (7) ④ (8) ②

## 解説

(1) 「彼は彼女の無実を信じるほど愚かではない。」

know better than to ~で「～しないくらいに分別がある、～するほど愚かではない」という意味を表すので、③が正解。

(2) 「その姉妹は日本でますます有名になった。」

「ますます～」という表現は、普通longer and longer(ますます長く)のように〈比較級+and+比較級〉や〈more and more+形容詞〔副詞〕の原級〉の形で表現する。したがって正解は②。

(3) 「健康ほど貴重なものは何もない。」

最上級を用いないで、最上級の意味を表す文に

## 文構成 (問題冊子p.12 ~ p.13)

### 1

#### 解答

- (1) The boy (was) (lying) on (the) (bed) (reading) a (novel).
- (2) We (had) (no) (chance) (of) (playing) (tennis) while we were in America.
- (3) This is (the most) (exciting) (game) (that) (I've) (ever) experienced.
- (4) The population of China (is) (ten) (times) as (large) (as) (that) of Japan.
- (5) I'm (not) (sure) (where) (he) (has) (gone).
- (6) My son was (preparing) (for) (tomorrow's) (class) (listening) (to) the radio.
- (7) It is difficult (to) (decide) (whether) (we) (should) (go) or stay.
- (8) No one can (deny) (the) (fact) (that) (you) (are) guilty.
- (9) Mr. Yamashita is said to have (read) (no) (less) (than) (twenty) (books) this month.
- (10) Even in winter it is (not) (so) (cold) (around here) (as) (in) Sapporo.

#### 解説

(1) 「その少年は小説を読みながらベッドに寝そべっていた。」

選択肢を見ると、二つの～ing形があるのに、be動詞は一つだけである。したがってここでは付帯状況の分詞構文が使われているのではないかと推測して解いてみる。するとThe boy was lying on the bedができ、残りのreading a novelを文末につけて完成する。

(2) 「我々はアメリカにいる間、テニスをする機会がなかった。」

文頭にWeが与えられているので次は動詞がくる。それに目的語を続けると、We had no chanceとなる。またそれとは別にplaying tennisのかたまりを作ることもできる。

そのchanceと動名詞のplayingとをつなぐのが前置詞ofである。このofは「同格」を意味し、the

なっている。〈Nothing is so 原級 as A.〉(Aほど～なものはない。)が「Aが一番～だ。」という意味になり、最上級とほぼ同じ内容を表す。〈as 原級 as A〉(Aと同じぐらい～だ)にnotが加わって否定文になったときに、副詞である最初のasの代用としてsoが用いられることが多い。〈not so 原級 as A〉(Aほど～でない)のnotの意味が、この問題では否定主語のNothingの中に吸収されたものとする。正解は③。

(4) 「私は数学では彼女より劣っている。」

superior (より優れている); inferior (より劣っている)などは比較級形容詞。これらはto～をつけて比較の対象を表す。

toは前置詞であるから後ろには代名詞の目的格がくるべきなので、④to herが正解。

(5) 「彼の家は私の家よりずっと大きい。」

普通の形の形容詞を強めるときにはveryが用いられるが、比較級にはつけることはできないので①は間違い。比較級の形容詞・副詞を強めるには**much, still, far, even**が用いられる。したがって②が正解。

(6) 「私はその少年が正直なので、いっそう彼のことが好きだ。」

〈the+比較級+for～〉の形で、「～のためにそれだけますます…」の意味を表す。〈the+比較級〉の前に強調のためallがくることがある。したがって正解は①。

(7) 「トムは彼の兄〔弟〕ほど賢くない。」

wiseの比較級は、wiserとなるので、①も②も不適當。lessが「より～でない」という比較級の意味を持つ副詞なので、ここでは④が正解となる。

(8) 「このバッグは2つのうちでよい方だ。」

普通、比較級には冠詞theはつかないが、「2つのものうちでより～」は、最上級と同じように「これが一番～」という限定されたものになるから、比較級でもtheがつく。したがって、〈the+比較級〉の形の②が正解。

**chance of ~ ing**の形で「～する機会」という意味になる。本問では「テニスをする機会」となる。  
 (3) 「これは私が今まで経験したなかで最も興奮した試合だ。」

まず英文が**This is**で始まっているので、補語として**game**がくると考えよう。**the most**は本問の語群の中では**exciting**の前にしかつく可能性はなく、ここまでで**This is the most exciting game**ができあがる。残った語群から**that**以下を組み合わせることができるであろう。

最上級のあとに **<that S have (ever) + 過去分詞>** がくると「～したなかで最も…」の意味になる。  
 (4) 「中国の人口は日本の人口の10倍です。」

**A is ~ times as large as B**は「AはBの～倍の大きさである」の意味。**that**は**the population**を指す代名詞であることに注意しよう。

「…のX倍である」は、一般に倍数表現 **<X times as ~ as…>** で表すが、「2倍」の場合は **twice as ~ as…** で表すことも覚えておこう。

(5) 「彼がどこに行ったのか私は知りません。」

**I'm**で英文が始まっているので、語群から続く可能性があるのは**gone**と**sure**である。**I'm gone**だと「私は行ってしまった」あるいは「私は死んでしまった」の意味となり、あとが続かない。したがって**sure**が続くことになる。**<I'm sure + 節>**の形で「私は～を確信している」の意味となる。

接続詞の働きをする語は**where**だけなので、残った主語と動詞を考えると**where he has gone**となり、残った**not**は意味を考えて**I'm**のあとに置けば、文意が成り立つ。

(6) 「私の息子はラジオを聞きながら、明日の授業の予習をしていた。」

英文の終わりが**the radio**となっていることから、直前が**listening to**であると推測できる。さらに語群中の名詞が**class**であることから、この名詞**class**を修飾するのではなく、「～しながら」という意味の付帯状況の分詞構文であると考えて解いていこう。

(7) 「行くべきかとどまるべきかを決めるのは難しい。」

**It is difficult**で英文が始まっているので、語群から続く可能性があるのは**to**不定詞と**whether**節である。**<It is difficult whether S+V>**にすると「Sが～するかどうかは難しい。」となり、意味的にも語数的にも無理がある。したがって**to decide**を持ってくる。そのあとは**whether**節を並べかえ

れば完成である。

(8) 「あなたが有罪だという事実を誰も否定できない。」

**No one can**のあとに続くのは動詞の原形なので**deny** (否定する) しかない。「何を否定できないか」というと、目的語には名詞 (節) しかすることができないので、**that**か**the fact**だとわかる。**that**節を**deny**の直後に持ってくる**と****the, fact**が余り、語数的にも無理とわかる。**the fact that ~** (～という事実) が本問の最大のポイントだ。ここでの**that**は接続詞で同格を表す用法である。

(9) 「ヤマシタ氏は今月20冊も本を読んだそうだ。」

与えられた英文が**is said to have**になっていることと、語群に**read**があることに着目し、**have**のあとに過去分詞**read**を置く。このような **<to have + 過去分詞>** は完了不定詞と呼ばれ、述語動詞よりも以前の時を表す。

**to have read**のあとにもポイントがある。それは**no less than ~**だ。これはあとに数詞を伴うことが多く、その場合に「～ほども多くの」という意味になる。

(10) 「冬でさえ、このあたりは札幌ほど寒くありません。」

**as ~ as**の比較が**so ~ as**になる場合、**so**の前に否定語がくるのが普通だ。したがって**not so cold ~ as**のかたまりを作ろう。残った語群から**around here**と「札幌」とを比較していると考えられるので**not so cold around here as in (Sapporo)** となる。

## 読解 (問題冊子p.14 ~ p.19)

1

解答

- [A] (1) ① (2) ④  
 [B] (1) ② (2) ⑤ (3) ③

解説

[A]

(1) ホテルのフロントで、客Aがチェックアウトしている場面。Aはフロント係Bの空所の発言を受けて、「このクレジットカードは使えますか?」と支払い方法について確認していることから、①「お部屋の代金は60ドルです。」が最も適当。②

「お部屋の鍵をお返ししましょうか?」、③「お部屋を変更されてはいかがですか?」、④「チェックアウト時間は11時です。」では前後の内容につながらない。

**【訳例】**

A: チェックアウトをお願いします。  
B: かしこまりました, お客様。お部屋の鍵をお願いできますか?  
A: はいここにあります。  
B: ありがとうございます。お部屋の代金は60ドルです。  
A: このクレジットカードは使えますか?  
B: もちろんです。

(2) コーヒーショップでの客Aと店員Bの会話。Aが店内でインターネットにアクセスできるかどうかBに尋ね、Bは「あちらの席でご利用いただけます。」と案内している。空所はその直後のAの発言であり、それに対してBが「ごゆっくりどうぞ。」と答えている。したがって④「よかった。少し仕事をしたかったんです。」が最も適当。①「あなたはコンピュータを持ってくるべきだった。」、②「そこは禁煙席ですか?」、③「どの席のことですか?」では直後のBの発言につながらない。

**【訳例】**

(コーヒーショップで)  
A: ここはインターネットにアクセスできますか?  
B: はい。あちらの席でご利用いただけます。  
A: よかった。少し仕事をしたかったんです。  
B: ごゆっくりどうぞ。  
A: ありがとう。コーヒーをお願いします。  
B: かしこまりました。

**【B】**

(1) 客のアリサにかばんの値段を尋ねられた店員の応答。「100ドルです。」と答えたあとの言葉なので、かばんについての何らかの発言が続くと考えられる。選択肢では①「これは特別な布で作られています。」か②「大変品質のよいものです。」になるが、①ではそのあとの「革製ですから。」という店員の発言と矛盾するので、②が正解。  
(2) アリサの発言に対して、店員は少し考えたあとで「85ドルではいかがでしょう。」と当初の100ドルから下げた値段を提示している。したがって⑤「安くなりませんか?」が正解。④「それはどんな種類の革ですか?」では直後の店員の発言につながらない。

(3) 直後で店員が「ありがとうございます。」と言っていることから、アリサはそのかばんを買うことに決めたと考えられる。③「わかりました。それにします。」が入る。

**【訳例】**

A: すみません。このかばんはいくらですか?  
B: 100ドルです。大変品質のよいものです。  
A: ちょっと値段が高いようですね。  
B: そんなことはございません。革製ですから。  
A: 安くなりませんか?  
B: そうですね…。85ドルではいかがでしょう。  
A: それでもまだ高すぎますね。  
B: これが私どもの精一杯 (のお値段) でございます。  
A: わかりました。それにします。  
B: ありがとうございます。